



広報のほりば

114号



元気に
“ハイ”

一年生も

胸をはって入学式に

ほくも、おなじも今日から一年生、先生から「わかりましたか」といわれると、一斉に「ハイ」と元気に返事もできます。

ことし登別町内の小学校に入学した児童は、七七一名（カルルス小一名、温泉小六一名、登別小一〇三名、札内小六名、幌別小二四名、幌西小一四五名、富岸小二名、鷺別小二二九名）で、昨年より三二名少なくなっています。

新入生にとって、これからの一番たいせつなことは、家庭でのせまい生活から未知の学校という団体生活に入った心がまえです。

新入学児をもつおおかあさんたちは、いろいろと心づかいをされていることと思いますが、学校生活を楽しくすすため、こどもの不安をよく理解して心をくばってあげたいものです。



議会風景

本年度の予算きまる

—— 第一回定例議会 ——

第一回定例議会は、三月十日から三月二十二日まで、十三日間にわたって開かれました。

十日は四十三年度補正予算と関連議案を審議、

十一日は町長の町政執行方針と四十四年度予算、

関連議案の説明、十二、十三日は休会、十四、十

五日は町政に対する一般質問、十六日は休会、十

七日は提出された議案を全員委員会に付託して審

議、十八日から二十日までには前日に引き続き全員委

員会、二十一日は休会、二十二日は全員委員会と

本会議を開いて、四十四年度予算と提出議案を審

議し、原案どおり全議案が可決されました。

今回の議題は、報告八件、議案三八件、請願一

件、意見書一件、決議一件、推せん一件で、主な

ものは次のとおりです。

四十二年度の決算を認定

総務委員会に付託していた四十二年度各会計の決算審査は、総務委員長から審査報告がおこなわれ議会で認定されました。

四十三年度一般会計予算総額 十億五千万五千元

四十三年度一般会計補正予算は一億三千三百七十七万七千円を減額し、歳入歳出予算総額十億五千万五千元となりました。

特別会計では、清掃事業三千八百四十六万六千円、国民健康保険八千四百八十八万六千円、観光事業一億二千八百三十五万五千円、学校給食事業五千三百四十三万七千円水道事業会計(収益的収支)は、一億百四十四万五千円となり、予算総額十四億四千八百六十七万四千円となりました。

新年度の予算決ま

一般会計十一億九千九百三十九

固定資産の税率百分の一・六を〇・〇五引下げ、百分の一・五五に軽減されました。

固定資産税率

〇・〇五引下げる

条例の一部改正

職員の定数が四二八名に

町長部局の職員二五二名が二七二名、教育委員会の職員五九名が七六名、選挙管理委員会の職員二名が三名、消防本部および署の職員三六名が四〇名にそれぞれ増員して職員定数合計四二八名となりました。

富浦霊苑の

富浦霊苑の使用料を定める

富浦霊苑の使用範囲は、登別町内に居住している方で、使用面積および料金は、一区画一三平方尺九〇、〇〇〇円、九平方尺五四、〇〇〇円六平方尺二七、〇〇〇円、四平方尺一四、〇〇〇円。これに、清掃手数料として一平方尺につき二、〇〇〇円が加算されます。

被保護者に対する

交通傷害保険料は町が負担

四月一日現在で生活保護を受けている世帯全員に対して、交通傷害保険料を、町が全額負担となりました。

議会推せん農業委員

三名になる

議会から推せんしている農業委員一名を二名ふやし、三名となりました。

中登別の一部が温泉支所に

中登別の一部(紅葉谷団地公営住宅から登別温泉側)の住民の利便を図るため、四月一日よりこの区域を温泉支所の所管区域となりました。

給水人口五一、五〇〇人

地域の発展に対応した給水区域の拡張をして、給水人口四万人以内を五一、五〇〇人、一日最大給水量九、〇五〇トを、一三、八四五立方尺になりました。

条例の設定

青少年会館設置

勤労青少年と児童・生徒および学生が学習、サークル活動、体育レクリエーションをするため字来馬二百六十一番地に青少年会館を建設。会館使用は五月以降になり無料で使用できますが、あらかじめ教育委員会の許可を受けてから使用するようになりました。

七十五歳以上のかたに

敬老年金を支給

登別町に居住する七十五歳以上のかたに、毎年九月十五日敬老年金として二、〇〇〇円を支給することになりました。(毎年本人または、扶養義務者が同居人等の申請が必要です)

条例の廃止

- ◆総合開発計画審議会条例
- ◆観光事業運営委員会条例
- ◆牛糞条例

一般質問

三月十四、十五日の二日間、町政について二名の議員から一般質問が活発におこなわれました。質問の主な内容はつぎのとおりです。

問 富岸海岸において砂を乱採しているが、将来、災害がおきるのではないかと予想されるが、この対策をどう考えているか。

答 富岸の海浜地の砂採取許可は申請者が漁業協同組合の同意書をそえて、町を経由して土木現業所の許可を受けるわけで、町が書類を進達する観点から、防災上または作業上の問題からみて、漁業協同組合、土木現業所と十分協議して配慮していきたい。

問 字名、地番の改正促進については、長期にわたりまた、かなり困難が予想されるので、より速かに実現するため字名、地番の改正に伴う専門委員会等を設置して推進する考えはないか。

答 過去においていろいろ検討を加えてきたが、現在の当町をみるととき早晩この問題をおし進めなければならぬ。さらに事務的なものを積上げ、事務局として小委員会を設置し、事務を進めていきたい。また、審議する段階で委員会あるいは審議会を設置して、この問題にとりくんでいく。

問 町民全体の健康管理に、もっと積極的に熱意を示してほしい。

い。また、年齢別に健康診断を実施する考えはないか。

答 町民の健康管理については努力しているが、種類が多いため全部となるとなかなか困難性がある。法に基づくものは実施しているものが数多くあるもので、医師ともども万全の方向に進めていきたい。

問 交通事故を起さないよう、信号機のない交差点にサーチライト式横断安全灯の設置と、交通事故に対する知識を与えるため交通の手引きを町民に配布すべきだと思うが。

答 町内には現在、十九の交通安全全灯がついているが、今後、交通上問題のある所から安全灯を設置していききたい。なお本年は鉄道の国道に二カ所設置する予定で。

また、細かく記した手引きについてはなかなか困難性はあるが、学校の児童を対象に交通安全全読本や掛図をもって安全教育をし、一般住民についてもチラシ等を配布して交通安全道徳向上に努めている。また、交通相談については町の交通安全係で相談するよう周知している。

問 鷺別貝塚の保護および開拓遺品等の貴重な資料の保護とその保存管理のため郷土資料館を建て、観光客の一環したルートにする考えはないか。

答 道では本年中に文化財保護に

指定するよう事務を進めている開拓遺品、先住民族遺品を保存する場合、所有権の問題があるが、保存する必要があると考

えているので、四十五年に図書館の建設を予定している中で、この中に郷土資料室を設けたい

問 観光産業の振興と基本構想でとくに登別温泉地区の発展育成を眺めてみると、駐車センターと第二道路の造成をすることが急務であると思うが。

答 観光産業の振興は必要でありますが、まず駐車場については厚生省、管林局などに強く働きかけ、駐車場の増設運動を展開し、設置の見透しは明るく、本年度中に許可になると思う。さらに強力に進めていきたい。

問 第二来馬橋は交通量が多く、老朽して破損箇所も多く危険をきたしているが、この橋の架替えをする考えはあるか。

答 工費約九千万円、幅員一八メートル長さ五十メートルの永久橋に架替えるべく補助申請を出して強力に運動を進めている。

第二来馬橋の架替え補助については、都市計画上の補助しかなかく、補助枠も非常に少ない。しかし、この橋の架け替えについては、できるだけ早い機会に実現できるように、さらに運動を進めていきたい。

問 幌別第三小学校の新設にもなり通学路をどのように考えているか。

中二、二〇〇歳の歩道フェンスを、二〇〇歳の歩道フェンスに歩道が設置されるようおおむね決定している。また、幌別石油前に信号機が新設されることになっている。

その他横断歩道橋等、安全対策をたてて子ども交通安全を十分考慮のうえ実施していききたいと考えている。

問 中小零細商工業者に対する援助で、現在の町の特別融資制度では、零細業者の要求に十分こたえることができない。もう一歩いまの制度を進めるため①直接融資制度を検討する必要がある。②無担保、無保証人制度を考慮してはどうか。③信用保証協会の金利を引下げ、さらにこの金利を町が負担してはどうか。

答 登別町内の商工業者は、中小零細商工業者が多いため、町の商行政の目標として、中小零細商工業者の保護策に力を入れてきている。

今後も無担保無保証人制度または、利子補給の問題、利子の引下げについては、熱意をもって改善、検討していききたい。

問 児童手当制度は、児童の個々の権利とする一つの制度であるしたがって、町独自で児童手当制度を実現する考えはあるか。

答 この制度については早急に実現をしなければならぬと考えている。

しかし、この問題は、社会保障の整備にあると考え、国の制度として、一環した考えかたから整備することがせんげつたと考える。

したがって、先の登別町議会でのこの制度を取上げ、実現を図るべく要望意見書の提出が決議されているので、今後も強力に運動を展開していききたい。

もし国の制度の設定がおくれるようなことがあるなら、町自体で検討しなければならぬと考えている。

問 当町のし尿処理施設の処理能力は、五〇トしかないが、年々発展する状況をみた場合、少なくとも八十トの処理消化槽が必要だと思うが、増設する考えはないか。

答 し尿処理能力は、現在万度に達しているため、予備貯溜槽をもって一応その間の処理にあたっている。

しかし、将来の人口増を考えると二〇から三〇トの消化槽を増設しなければならぬと考えているので、四十五年以降においてこの問題にとりくんでいきたい。

問 町民体位の向上とレクリエーション的見地から町民プールの建設は急務と思うが、建設する考えはあるか。

答 昨年第三種陸上競技場ができたので、あの周辺を運動公園として町民プールを建設する計画をもっている。しかし、用地の問題があるので、用地を求めてできるだけ早い機会に町民プールを建設していききたい。

新たな百年に向けて

町民生活の向上と経済の発展を

町長の町政執行方針要旨



執行方針を語る高田町長

四十四年第一回登別町議会定例会の開会にあたり、私の町政執行の基本姿勢と施策の大綱について申しのべ、四万四千町民の理解とご協力をお願いしたいと存じます。私たちの郷土登別町は、幾多先人が偉大なる開拓精神に徹し、きびしい試練と風雪にたえて、ここに百年の歴史的阶段を経て、新たな第二世紀を迎えました。

この歴史的な背景とその意義を胸中に深く銘記し、本町経済の豊かな発展と町民生活の一段の向上を図るため、新たな百年の進展に向けて、町政を積極的に推進していく決意を新たにしました。

昭和四十四年度は、登別町の二世紀を画する都市的環境の基盤確立と、産業開発基盤確立の構想を確かな判断のもとに捉えて、企画

性かつ機能性のある町政を推進するため、過去の町政に反省を加え現状の姿勢を分析し、今回完成した「登別町総合開発計画」にもとづき、明るく豊かな町づくりのビジョンを形成してまいりたいと念願しております。

私は町政の負託を受けて以来

予算編成の概要

最近の経済動向は、一昨年以来の大型景気はすでにピークに達し本年後半にかけては、必ずしも樂觀を許さなくなつてまいりました。そこで、昭和四十四年度の予算編成にあたりましては、常に経済情勢を把握し、適格な状況判断のもとに町民の経済安定対策を図り財政運営についても、常に弾力性のある健全化と効率的な運用に強く意を用いなければならぬと存じます。

また、最近の地方財政は依然として地方債等の財源に依存しているのが実態で、今後、適正な税制制度の確立と交付税率の引上げ、補助金の拡大等による自主財源の確保と行政事務の再配分による地方財政の健全化について努め、重点施策を積極的に推進することといたしました。

昭和四十四年度の重点施策といたしましては、「都市的環境の整備促進」「産業基盤の確立」「教育行政の推進」および「行政経営の近代化」の四つの目標をかかげこの目標の達成のために、必要な事業を重点的に実施する考え、あります。

第一の

「明るく住みよい大登別の都市建設」と「住民意志尊重を町政の柱とする」を基本理念として、住民福祉の充実に最善の努力をつくしてまいりましたが、昭和四十四年度におきましてもこの姿勢を堅持して、さらに一層の努力を尽くす所存であります。

都市環境の整備促進

の施策では、住民のすべてが幸福で、健康な社会生活が営まれるよう、社会福祉の充実と施設の整備促進をするため、清掃事業の改善、老人福祉の増進、交通安全対策の徹底、霊苑の整備、町道の舗装化、排水施設の整備、住宅対策、常備消防体制の強化等に一段と力を注いでまいりたいと存じます。

第二の

産業基盤確立

の施策では、

産業経済の基盤を確立し、既存産業の体質強化と産業諸施設の整備促進を図るため、継続事業として進めてきた農業諸施策の早期完成漁港の整備促進、中小企業の育成強化、工業用団地の確保、観光施設の充実等を進め、生産意欲の向上と勤労意欲の向上に努力してまいりたいと存じます。

第三の

教育行政推進

の施策では、

次代をなす青少年の健全な育成を図るため、学校の施設と増設、スポーツ振興、公民館活動の充実を期してまいりたいと存じます。

第四の

行政経営の近代化

の施策では、

従来の行政事務を改革し、民間企業における経営方式に近い合理的かつ能率的な行政を進めるため、電子計算機の導入、消込み事務の機械化、財務会計の伝票化、窓口の統合と機構の改善をおこない、福祉の増進を図ってまいりたいと存じます。

以上の四大構想を重点施策として予算編成をおこないました。この基本としては、

①職員給与改訂費、特別会計繰出金、その他補正要因として予想される経費は、あらかじめ当初予算に計上しました。

②消費的経費については、全職員に経済観念を浸透させ、事務の合理化、機械化によって節減し、一般行政部門の職員の新採を見合せました。

③起債、補助金をもって建設する事業については、地方財政計画、国・道の予算内容を検討し、財源が確実に見込まれるものにしほりました。

④年度間に予想される歳入は、すべて予算に計上しました。

⑤固定資産税率を〇・〇五引き下げ百分の一・五とし、住民負担の軽減に配慮しました。

この結果、予算の総額は、一般会計十一億八千九百二十九万二千円、特別会計三億二千九百四十七万三千円、水道事業会計一億六千五百一十二万二千円、合計十六億二千四百九十一万六千円と開町以来最大の規模となりました。

44年度各会計予算

| 会計別 | 年度別 | | 増減 | |
|-------------|-------------|------------|------------|---------|
| | 44年度 | 43年度 | | |
| 一般会計 | 11億89,292千円 | 9億67,221千円 | 2億22,071千円 | |
| 特別会計 | 清掃事業 | 46,060 | 30,057 | 16,003 |
| | 国民健康保険 | 93,528 | 82,937 | 10,591 |
| | 観光事業 | 1億31,732 | 1億39,539 | △ 7,807 |
| | 学校給食事業 | 58,153 | 53,991 | 4,162 |
| | 小計 | 3億29,473 | 3億06,524 | 22,949 |
| 水道事業会計(収益的) | 1億06,151 | 93,016 | 13,135 | |
| 合計 | 16億24,916 | 13億66,761 | 2億58,155 | |

総額十六億二千万円で 二世紀へ前進

ことしの予算は、別表のように総額十六億二千四百九十一万六千円となりました。

昨年度の当初予算に比べると、一般会計は、二億二千二百七十一千円がふえ二・九割の伸びとなり、特別会計は、四つの会計を合わせると二千二百九十四万九千円がふえ七・五割の伸びとなっています。

また、水道事業会計(収益的収支)は、一千三百三十五千円がふえ、一四・一割伸びています。

町税は予算の三・三%

一般会計の歳出内容については、六頁と七頁で掲載しましたので、歳入についてみてみますと、一般会計の歳入予算の内容は、下の図のとおりですが、自主財源は五億四千六百四十四万七千円で総予算の四五・九割をしめ、このうち町税は三億七千二百五十五万七千円で、昨年より四千七百四十一万八千円ふえてお

ります。

このほか諸収入は、昨年より三千二百八十五万七千円ふえ、一億一千四百六十六万二千円となっております。

いっぽう、国・道の依存財源は六億四千二百八十四万五千円で、総予算の五四・一割をしめておりこのうち地方交付税は、昨年より八千万円ふえ二億四千五百万円、町債は七千三百五十万円ふえ、一億八千二百五十万円となっております。

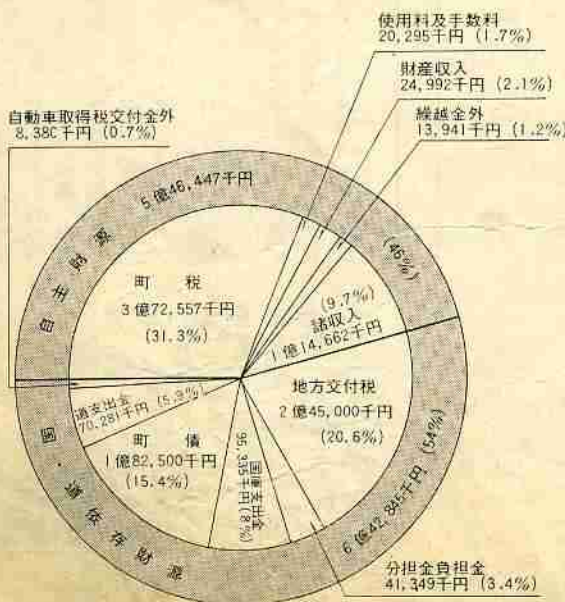
また、国庫支出金は六百八十九万二千円、道支出金は五百五十七万円が、それぞれ昨年より少なくなっています。

固定資産税は一億五千万円

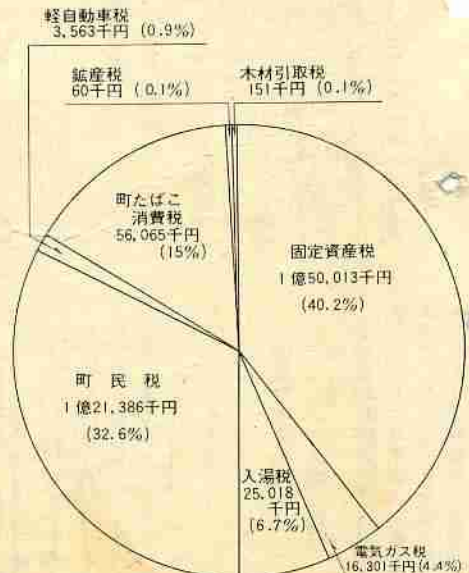
町税は、一般会計予算の三・一、三割と大きな予算がくまれ、中でも固定資産税は、町税予算の四〇・二割をしめる一億五千一萬三千円となっております。

このほか町民税は、一千九百四十五万八千円、たばこ消費税は、四百八十六万五千円、入湯税は、三百六十一万七千円とそれぞれ昨年よりふえています。

44年度一般会計歳入予算



44年度町税の予算



のまちづくり

予算は
このように使われます

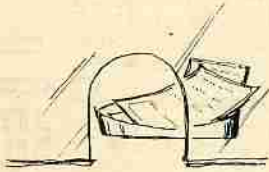
一般会計支出予算を費目的にみると別表のとおり教育費が予算の一九・三割と一番多く計上され、続いて総務費が一六・四割、土木費が一五・四割となっています。また、性質別にみると消費的経費（人件費、物件費等）は、予算の四〇・六割をしめ、昨年と比べて一億七千三百四十万円ふえています。いっぽう投資的経費（普通建設費、失業対策費）は、四〇・二割をしめ、昨年より五千五百五十二万六千円ふえています。

44年度一般会計予算

| 区分 | 44年度 | 43年度 | 42年度 |
|--------|-----------|----------|----------|
| 議会費 | 19,806 | 16,506 | 15,323 |
| 総務費 | 1億95,552 | 1億51,158 | 1億22,362 |
| 民生費 | 73,292 | 88,033 | 33,680 |
| 衛生費 | 35,778 | 27,453 | 11,700 |
| 労働費 | 76,291 | 58,786 | 49,911 |
| 農林水産業費 | 1億44,338 | 1億19,384 | 18,740 |
| 商工費 | 77,904 | 57,263 | 38,907 |
| 土木費 | 1億83,977 | 1億44,339 | 64,957 |
| 防衛費 | 64,833 | 74,970 | 30,489 |
| 教育費 | 2億28,904 | 1億46,449 | 66,559 |
| 公債費 | 86,617 | 66,665 | 54,859 |
| 予備費 | 2,000 | 1,000 | 300 |
| 災害復旧費 | - | 15,215 | 7,507 |
| 合計 | 11億89,292 | 9億67,221 | 5億15,294 |

町民に直結した 主な仕事

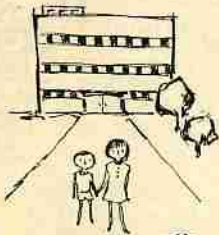
ことしの予算がどのように使われ、どのような仕事がおこなわれるかを費目別にみてみます。



総務費

窓口を統合

住サービス



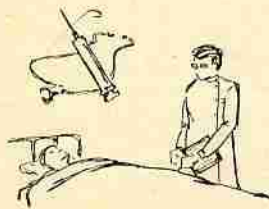
民生費

富浜に

児童会館建設

全町民が明るく希望のもてる生

行政事務の改革をするため、電子計算機導入費四百六十万円、窓口を統合し、住民サービスの向上を図るため、役場庁舎改造費百五十万円を計上。このほか、共済住宅建設費五百八十万円、職員の住宅および用地購入費二千十三万円が計上されています。



衛生費

富浦に
明るい霊苑

富浦に総合的な霊苑を整備するため、用地の購入と造成費二百八十九万円計上。このほか中登別霊苑造成費八十万円が計上されています。なお、ことしからじん芥手数料の一般家庭分を無料としたほか、くみ取り手数料の徴収についても改善を図ることになっています。

活ができるよう予算がくまれ、特にことしから七十五歳以上の老年より年金を支給するため百万円が計上され、また、交通傷害保険の全戸加入と生活保護世帯に対する掛金の全額町負担とするため二百五十一万一千円を計上されています。このほか、防犯灯設置および町内会助成金三百二十七万八千円、富浜児童会館建設費五百八十万円、交通安全用セットカー購入費八十万円が計上されています。



労働費

勤労者融資積立金
大幅に増額

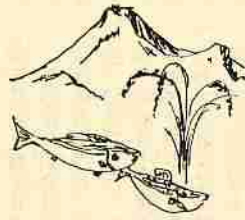
勤労者の住宅資金と生活資金の緩和を図るため二千万円を計上したほか、公共施設の整備を有効におこなうため失業対策事業費五千九十八万九千円が計上されています。

一般会計性質別予算



44年登別町

今年の



農林水産業費

幌別・舊別間の開発と

奥地の開発を

継続事業の早期完成と幌別・鷺別間の開発、さらに奥地の開発を

観光費では、観光協会事業助成と地獄祭助成および観光団歓迎助成として四百万円、観光センター新設費三百六十万円、カルルス

一企業者へ貸付する限度額を引上げるため、融資積立金四千二百万円計上したほか、道信用保証協会貸付金八百万円を計上。このほか、近く完成する商工会館の建設補助金五百三万六千円計上し、商工業者と働く町民の育成に力を入れている。

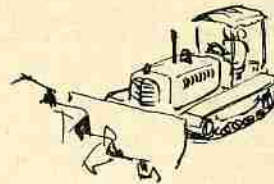
中小企業者へ
健全な融資の道開く



商工費

積極的にすすめるため、札内地区農免農道事業費九十七万八千円、富岸地区かんがい排水事業費二千七百七十七万二千円。中・西札内地区土壌浸蝕防止事業費千三百九十五万円、富岸地区農道新設事業費二千九百九十万円、札内地区開墾建設附帯事業費二千七百七十七万円が計上されています。
水産業では、荷捌所および製氷冷蔵施設建設補助百万円、登別漁港修築事業負担金四百六十六万七千円が計上されています。

温泉入道橋新設費二百四万円、川上自然公園電気導入負担金三百五十万円などが計上されています。

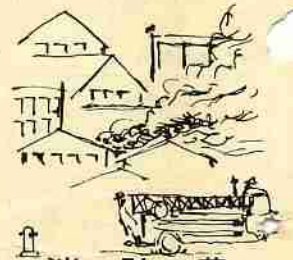


土木費

舗装工事に
四千二百万円

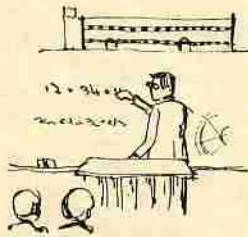
町道舗装五カ年計画では、三億千二百万円をかけ舗装化がすすめられ、ことは、一、九一五厨の町道を舗装する計画で四千二百二十万円を計上されたほか、東通り舗装のため千八十五万円の計上をみている。また、都市公園の新設では、来馬(西公園)と登別(旭公園)の二カ所の新設のため五百七十万円。いっぽう公営住宅では、一種六戸、二種二〇戸を建設のため三千二百八十二万八千円と用地購入のため二千五百二十四万円が計上されています。
排水施設では、全町にわたり住民の浸水不安を解消するため二千

消防自動車購入



消防費

消防職員を四人増員して、火災発生の対処と消防の充実を図ったほか、消防ポンプ自動車および小型動力ポンプ購入費四百七十五万円、消火栓・消火水槽新設費二百三十万円、消防吏員待機宿舎建設費千八十万円が計上されています。



教育費

幌別に

第三小学校建設

幌別鉄南地区に第三小学校を建設するため、敷地購入費等をあわせ七千三百四十八万八千円が計上

六千四百十Mの
配水管を布設



水道事業会計

幌別地区給水区域を拡張し、水不足を解消するため、配水管布設費二千七百八十四万一千円、配水池築造費二千五百六十一万九千円、水位調整弁室工事費二百万円、鉄道、国道横断費四百五十四万円を計上されたほか幌別地区配水管布設費百六十一万八千円が計上されています。

たほか、上幌別にも明年以降に学校を建設するため敷地造成費七十万円を計上。このほか、登別小学校増築費四千九百九千円、各小中学校改修費四百五十万円、登別育英会寄附金百万円を計上されています。
社会教育では、公民館活動を通じて、社会教育の場を広げるため中央公民館増改修費として三百五十五万五千円計上されたほか、図書館建設基金積立金二百万円、体育協会助成金八十万円が計上されています。

昭和六十年のビジョン

登別町総合開発計画でできる

長い間の懸案のひとつであった登別町総合開発計画が、四十四年三月でできあがりしました。

この総合開発計画は、四十二年十月総合開発計画審議会(会長伊藤森右衛門氏)を発足し、小樽商科大学、北海道大学の諸先生、関係諸官庁、ならびに町民の代表によりいろいろ検討を続け、昭和六十年度を最終目標年次とする十六年間の長期展望にたった大計画ができあがりしました。

十六年後の登別町は、人口七三、〇〇〇人、この計画に必要な総事業費は四百六十三億九千五百万円と想定するこの計画の中に、夢いっぱいあふれる町づくりの計画が盛り込まれております。今月号は総合開発計画の「基本目標」と「計画達成のための主要課題」を計画書の中からお知らせします。

基本目標

広域的な都市化の激しい時代にあつて、町民の快適な日常生活の場を作りだすため、当時の歴史的発展過程、社会問題、地理的、自然的条件あるいは現存する産業や施設の状態などを適確に把握しながら、本町の将来あるべき姿を形成しなければなりません。

このための基本目標として
◇都市的環境の整備 快適な日常生活を送るため、恵まれた自然環境を生かし、住宅、公共施設、スポーツ、レクリエーション施設、交通施設等を整備し、清潔で健康な町づくりを推進する。

◇産業経済の振興 産業経済の発展は、町民一人一人の所得水準の向上につとめなければならない。したがって工業は、将来とも発

げ方式による推計と単純トレンドによる推計を試み、六十年における総人口は、これらの推計方法の平均値をとって七三、〇〇〇人とする。

産業構造の想定では

◇就業者の総数を昭和四十年に比べると一六、四二〇人から六十年には三五、九五〇人になり二・一九倍になる。

第一次産業は、構成比において四・六割(七六二人)から一・八割(六六〇人)に減少し、他産業の移動と就業者の老齢化による消滅が原因となっている。

第二次産業は、構成比において四〇・〇割(六、五六九人)から三七・二割(一三、三七〇人)に低下しているが、実数において二倍の増加となっている。

第三次産業は、就業者数で二・四倍となり、構成比においても五・四割(九、〇八九人)から六一・四割(二一、九二〇人)とふえ、先進地の就業構造に近づいている。

◇所得構造の想定では、四十年の総所得額三十三億七千二百万円に比べ、六十年には八・二六倍の二百七十五億二千二百万円となる。

第一次産業の四十年の所得額は一億百万円であるが、六十年までに農業は、生産物の需給動向をもとに酪農、畜産業を中心とする経営形態を指向し、機械化による労働生産性を向上し、水産業では、漁船の大型化、漁場の造成と開拓によって、五億八千二百万円を目標としている。

第二次産業の四十年の所得額は十五億七千九百万円であるが、中小企業の近代化を図るとともに、苦闘工業地区関連企業の進出も予想され、鉄業、建設業も製造業と一体的な発展を期待され、六十年には、六・〇八倍の九十六億三百万円を目標としている。

第三次産業の四十年の所得額は十六億九千三百万円であったが、登別温泉街の振興を中心とするサービス業を主体に、第二次産業の発展、都市化の進行によって伸長が期待され、六十年には一〇・二四倍の百七十三億三千七百万円を目標としている。

計画達成のための課題

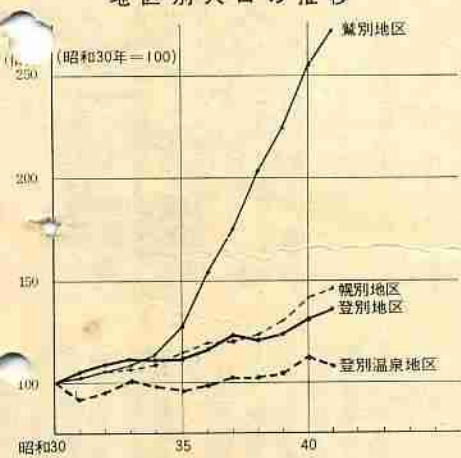
以上の想定した人口、産業構造を実現するため、三つの主要課題があげられます。

◇産業経済の振興 〓 サービス業は観光レクリエーション需要の動向をもとに現在の受け入れ体制、収容施設を再編成しなければならない。農林漁業は、立地条件に恵まれた札内台地に展開する酪農業、養鶏、養豚、肉牛飼養の畜産業、従来の捕獲漁業から栽培漁業など生産基盤、生活環境を整備する必要がある。

第二点は
◇都市環境の整備 〓 住宅の配置産業の配置、上水道の拡充新設、観光レクリエーション施設整備、輸送施設および通信施設の強化を図り、教育文化施設、社会福祉施設の整備、治安維持、防災など生活環境を整備しなければならない。

第三点は
◇広域的な諸問題 〓 当町は高速自動車道の建設予定ルート上にありさらに産業開発自動車道の計画もあり、これらを前提として産業立地、将来の市街地形成等を考える必要がある。さらに観光では、交通機関の発達、道路網の整備により、広域的な観光圏域の中で登別温泉の性格を打ち出さなければならない。

地区別人口の推移



人口の想定では

当町の将来人口推計には、各産業就業者をベースとして積み上げ

コンピューター導入で

行政事務をスピード化



コンピューターの火入れ式で高田町長がテープにハサミ入れる

行政事務の近代化を積極的におこない住民サービスにつとめようと、昨年十二月電子計算機を導入し、総合事務近代化準備室を設けこの準備にあたっていたが、新年度の四月十日、この準備室を推進本部に改めるとともに、近代化行政のスタートとなるコンピューター火入れ式が午前十一時からおこなわれました。

町では、従来の行政事務を改革し、合理的かつ能率的な行政を進め、社会情勢に適應した行政経営を積極的におこない、さらに、年々複雑化される行政事務による職員をふやさず、人件費の増額をおさえ、機械力によって、よりよい住民サービスにつとめようと電子計算機を導入したものです。

この電子計算機は、NEAC-1240型で、ことしの主な仕事は各税(町道民税、固定資産税、国民健康保険税、水道料)の課税調書、収入原簿、納入通知書の作成課税諸統計資料の作成など、税務関係の事務のほか、給料計算、年末調整、給料統計資料の作成などをするようになっていきます。

また、アドフレックス消込機を導入して消込み事務を機械化し、いままでは会計課でおこなっていた照合事務の手間がはぶかれるうえ、正確性が図られて、消込み事務が迅速化されます。

いっぽう電子計算機導入による作業処理能力は、町道民税(普通徴収)を例にとると、処理件数約四千件の計算事務、集計事務、納付書作成に三人で十七日間(一人一日七時間)事務して三五七時間かかる仕事を、計算機では七八時間

間で処理できます。

その他六千件の処理件数がある固定資産税の事務も、導入前は七百時間かかっていた仕事を、計算機の導入によって九六時間で処理ができるので、事務が大変スピード化されることとなります。

また経費でも、オペレーターの経費は一時間当り二〇〇円とみているが、人件費に比べてみると約半分ですむので経費の節減にもなります。

町では、本年度の事務内容が軌道に乗ると、四十五年以降にはさらに電子計算機を拡張し、転入転出リスト、乳幼児や老人の健康診断資料、成人式該当者リスト、各種統計、住民アンケート集計などの事務ができるよう企画しており

ます。

窓 統合と伝票会計を実施

住民サービスにつとめるため役場庁舎の改築をおこない、現在分散している民生部関係の窓口を一カ所に統合して、窓口事務の迅速化を図るよう計画されています。

さらに財務会計事務の改善をするため、いままでの帳簿方式を伝票会計制度に改め、四月二日より調定伝票、収入伝票、物品購入伝票、支出伝票等の各会計歳入歳出事務を伝票会計でおこない、複雑化している転記事務を解消し、事務の能率化が図られました。

登別の舞良君が

自転車で日本一周

二年がかりで全国を自転車一周して、社会を見聞し、自分自身の修業をつもうと舞良誠勇男君(登別二二九)と伊藤博美君(札幌市)の二青年が、四月一日登別町をスタートしました。

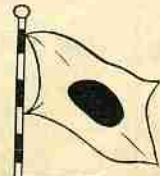
この日は、役場前に多数の町職員が見送るなかで、高田町長より、日本全国の先進地を広く見聞し心身ともにみがいて元気に再び郷土登別に帰ってくださいと激励すると二青年は、決意も新たに元気に壮途につきましました。



日本一周に出発する二青年

町の人口

| | |
|-------------|---------------|
| 3月末現在 | |
| 総人口 | 44,155人(97増) |
| 男 | 22,416人(35増) |
| 女 | 21,739人(62増) |
| 世帯数 | 11,777世帯(32増) |
| ()内は先月との増減 | |



祝祭日には
国旗を掲げましょう

今月の納税

◎軽自動車税(全期)

4月30日までです。忘れず納期内に納めましょう。



火のおそろしさ

知ろう、話そう、教えよう

一年を通じて火災の一番多いシーズンになりました。
とくに春は、風が強く、空気が乾燥して火災が発生しやすく、ちよつとした火の粉も大火となる恐れがあります。

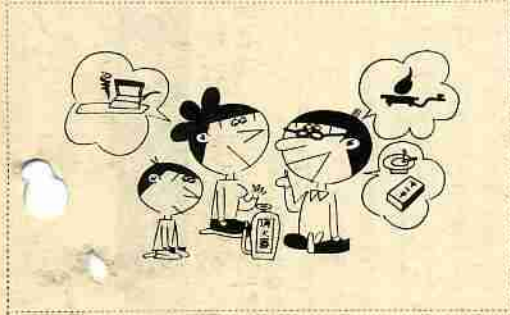
昨年一年間の当町の火災発生件数は二九件で、建物一五件（全焼九件、半焼一件、部分焼五件）、車輜二件、林野一二件となつており、これを原因別にみますと、たきびの不始末による火災が七件と一番多く、つづいて

春の火災予防運動始まる

タバコの火の不始末三件、子どもの火遊び二件、ススの不始末二件、プロパンの取扱い不良二件その他一三件となつており

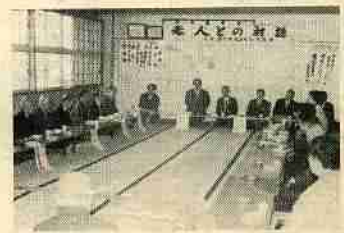
ます。
わたしたちの生命や財産を火災から守るため、四月二十日から五月十九日まで全道いっせいに「春の火災予防運動」がおこなわれます。期間中、消防員・団員が各家庭を訪問し防火診断がおこなわれることになって、います。
なお、火災の多い町を

- ◇ 空家などは子どもの火遊びの場となりやすいので、戸締りを厳重にしよう。
- ◇ おやすみのときは、バケツ一杯の水を用意しておきましょう。
- ◇ 避難口になる出入口、窓などがすぐ使えるかよく調べよう。
- ◇ ゴミ焼をする場合は必ず消防署に届けて許可を受けよう。
- ◇ 山林や原野でたき火をしたり、たばこを吸うことはやめよう。
- ◇ 老人や子ども、病人だけを残しての外出は思わぬ事故となりますので、外出するときは必ず火の元の安全を確かめよう。



町長と老人のひととき

町の社会福祉協議会では、町長とお年よりの理解を深めるため、三月二十八日中央公民館において町長とお年よりの懇談会がもたれました。この日は、町内の老人クラブの代表の方々約三十名が出席し、日頃感じていることについて忌憚のない話し合いが進められました。



中央公民館でおこなわれた老人との対話

高田町長から「昨年は開町百年の意義ある年を迎えましたがこれはお年よりのみなさんの労苦によるものと心からお礼申します。このため四十三年には、一日気軽に利用できるみなさんの老人福祉センターを開設しましたが、今年には七十五歳以上の方々に老人年金を支給することになりました。今後もお年よりの福祉につとめます」とあいさつがあつて懇談に入りました。

ここでは、◇多くの話し合いの場をもつてほしい、◇老人バッチをつくらせてほしい、◇各地区に老人福祉施設を設けてほしいなど活発な意見や要望が数多く出され、熱心に話し合いがなされました。この後、婦人会役員、町内会長、民生委員とを囲んで、家庭における老人のありかたを、中心に約二時間にわたる話し合いがなされ有意義な一日を過ごしました。

みんなで山火事を防ごう

四十三年の本道における林野火災状況をみると発生件数百九十四件、被害面積二、四〇二・八四畝となり、前年より約二十割ふえています。この原因は、山菜取り、ハイキング、登山などで入林する人のタバコ、マッチの不始末による失火が依然と多くなつています。入林する人は火気の取扱、火災の注意を守り、山火事の発生を防止しましょう。

火入れと入林は許可を受けてから

林野火災を防止するため、火入れは火災危険期をさげ、火入れをするときは、五日前に消防本部へ届け出、許可を受けてからおこなひ、実施後もその旨を連絡してください。また入林する場合は、森林愛護組合で入林許可証を必ずし、必ず許可を受けま

入学祝いに

交通傷害保険のプレゼント

登別第五町内会では、登別小学校に入学する一年生を祝って、町民交通傷害保険の掛け金のプレゼントがありました。

この町内会では、毎年町内の新入学児童に対して学用品等を贈り入学を祝つておりましたが、ことしは、ひんぱんにおきていたが、ことしは、対処して、昨年から町が実施している町民交通傷害保険に、対象者一名の加入手続きをしました。

同町内会では、効果的なプレゼントを考えたと、来年以降も続けようとして話し合っています。

美 挙

(愛情銀行へ)

- 岡田竜登(幌別)二万円、登別町農業組合二万円、コーヒーパルイ四、一五九円、平広(鶯別)一、四二七円、匿名(幌別)五〇〇円、吉田靴店若葉会ランドセル一〇個、登別町商工会粉石けん一三五箱、老人クラブ富士の白雪会雑巾四〇〇枚、美野田享子(米馬)古切手九、〇〇枚、今泉政市(温泉)古切手三三三枚、丸山武男(千歳)ガソリン一〇リ、上鷺別老人クラブ水菜会雑巾一六〇枚
- (育英会へ)
- 富士(至蘭一〇、〇〇〇円、富士工業)一〇〇〇円